



THE RECORD

2003.08
No. 525

Essay

音楽への「熱き想い」 作曲家 平尾 昌晃

Special Feature

音楽とネットワークの正しい関係

IT時代における新しいビジネスモデルの確立へ向けて

World News Clip 特集編

IFPI海賊版レポート2003から

● 連載Column: Music & Law

「著作権登録について」 弁護士 中川 達也



社団法人 日本レコード協会

音楽への「熱き想い」

平尾昌晃 (作曲家)



平尾昌晃 (ひらお まさあき)

58年にレコード歌手デビュー、ロカビリー・ブームの先頭に立って活躍。「星は何でも知っている」「ミヨちゃん」が大ヒット。66年作曲家に転向。67年「霧の摩周湖」(布施明)、「渚のセニョリーナ」(梓みちよ)による日本レコード大賞作曲賞受賞に始まり、日本の音楽シーンを彩る数多くの名曲を手がける。一方で「平尾昌晃ミュージックスクール」を全国に展開、新人歌手育成などを図る。2003年に音楽活動45周年を迎えた。同年5月には「紫綬褒章」受章。(社)日本作曲家協会常務理事、(社)日本音楽著作権協会理事などを務め、様々な方面で幅広く活動。また、今年で第29回を迎える「平尾昌晃プロ・アマチャリティゴルフトーナメント」を主催。大会で集められた基金をもとに、チャリティ活動を展開している。

表紙の楽器

ディジュリドゥ

オーストラリアの先住民であるアボリジニの伝統的な民族楽器。シロアリによって幹の中を食い荒らされ空洞化した木に口当てをつくり、息を吹き込んで口や筒の中に共鳴させ、独得な音を奏でる。

アナログレコードが姿を消して、ちょっと寂しい気がしている。好きなアーティストのLPジャケットを並べて、どんなふう撮ったのかな、どんな気持ちで歌ったのかなと想像する楽しみ・・・ワクワクしながら、買ったばかりのレコードの溝に針を落とす瞬間の感動・・・そしてレコーディングの雰囲気そのままの「歌」。音楽にまつわるすべてを味わえる楽しみが、詰まっていたからだ。

45年前に「星は何でも知っている」をレコーディングした時のこと。今と違って、人が指揮して作っていくのだが、リズムが走ったり、遅れたり、微妙に揺れる。でもそれは、人間にしか表現できない揺れである。人が奏でる生き活きとした音もそのまま使われた。音としては、今と比べて未完成かも知れない。けれど理屈抜きに人々に飛び込む「熱き想い」を宿していたと確信している。

昔は「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉が息づいていた。生活の中から歌が生まれ、その一曲を聴くと、あの頃こんなダンスが流行った、ファッションや車はこうだった、大きな事件があった、とその時々の様子がまざまざと甦る・・・。1950～70年代の音楽には、そんな豊かな生命力があった。曲がいい、詞がいいと

という一言で片づけられない総合的な手づくりの良さ。それがアナログレコードに凝縮されていたと僕は思う。

デジタル技術が発達して、音はすごく良くなった。レコーディング設備も昔に比べ羨ましいくらいに充実している。リズムや音程の狂いも正確に修正できるから、非常に便利である。それは素晴らしいことだと思う一方で、アナログ時代の原点、音楽への「熱き想い」をもっと大切にする必要があると強く感じている。

歌や音楽は、もう生活に絶対欠かせないものになった。そこにもっと熱意、想いを込め、国民の皆さんに歌ってもらえる歌を送り出したい。そのためには音楽の作り手が、シンプルに手づくりの良さを出していけばいいんじゃないか。僕自身は、短くて歌いやすく、情景が思い浮かぶ曲を創ろうとテーマを持って取り組んでいるが、制作のプロ同士がワイワイ言いながら個性をぶつけあうことが大事だ。売れる売れないは結果論。皆で燃えて、楽しみながらやるだけやったものは、必ずいい結果を生む。音楽にかける「熱き想い」を、一生懸命手づくりで伝えようとする努力があれば、どんな時代でも、人々に永く愛される歌を創造できると僕は信じている。(談)

Contents

Special Feature	
音楽とネットワークの正しい関係	2
連載Column : Music & Law	6
World News Clip 特集編	7
Topics & Information.....	10
Monthly Production Report.....	12
今月の数字.....	13
Gold Album+...認定	14



音楽とネットワークの正しい関係

ブロードバンド時代の到来に伴い、音楽は、インターネットや携帯電話等のネットワークで手軽に利用できるコンテンツとして、ユーザーからの期待が日増しに高まっています。その一方、違法なファイル交換や過度な複製問題は、レコード産業が直面する大きな課題となっています。

IT時代における新しいビジネスモデルの確立へ向けて

レコード業界では今、パッケージ市場の活性化に向け、様々な努力を続けているとともに、ネットワーク時代における新しいビジネスモデルの構築に取り組んでいます。一般の人々に正しい音楽配信の存在が認知され、新たなビジネスモデルとして確立することが、ユーザーサービスの充実につながります。同時に、ネットワークにおける音楽の不正利用の抑止力となり、ネットワーク上での秩序ある音楽利用の拡大につながると考えられます。

今回の特集では、このような音楽配信ビジネスの取り組みを取り上げ、その現状とこれからの方向性を探りました。



絶対! 洋楽

世界初! 音源があなたの携帯に届く。

●HIT曲100(新集)

●Parklife

●全曲検索

●配信予約

今週の注目

01's特集

Disc!特集

Funky特集

★ 特集レポート

☆ 無料試聴☆

- M-Power! 配信
- 90's 配信
- 01's HITS
- お気に入り 配信
- 2週間

この冊子も収録!

01's 01's HITS 2冊付

豪華付録! 洋楽の歴史

1000曲の洋楽の歴史



レーベルモバイル株式会社
代表取締役社長 上田正勝氏

レーベルモバイル株式会社 会社概要

資本金	1億5,000万円
設立年月日	2001年7月3日
事業概要	携帯端末における 1. 携帯電話向けポータルサービスの企画・運営 2. 着信メロディーサービスの企画・運営 3. 携帯電話向け試聴サービスの企画・運営 4. 上記他の携帯電話向けサービスの企画・運営 他
参加会社	エイベックス株式会社 キングレコード株式会社 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 株式会社ティチクエンタテインメント 東芝EMI株式会社 株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ(着うたのみ) 日本クラウン株式会社 株式会社バップ 株式会社BMGファンハウス ビクターエンタテインメント株式会社 株式会社フォーライフミュージックエンタテインメント 株式会社ポニーキャニオン ユニバーサルミュージック株式会社 ワーナーエンターテインメントジャパン株式会社 ワーナーミュージック・ジャパン 他 計18社
URL	http://www.labelmobile.com

レコード産業自身で取り組む 新たな携帯向け着信音サービス「着うた」

携帯電話端末の着信音として、アーティストの作品を音源にする「着うた」。昨年12月にスタートしたこのサービスは急成長し、レコード産業に大きな利益をもたらすビジネスとして順調に成長しています。着うたのできた背景から現状、その可能性までレーベルモバイル株式会社の上田社長に伺いました。

レーベルモバイル社の設立趣旨

レーベルモバイル社の設立は2001年7月。当時、携帯電話の着信音市場は300億円以上の規模を持っていました。売上拡大にCD販売が大きく影響しているのに、レコード会社には何の対価も還元されません。しかし携帯電話の進化とともに、将来CD原盤を音源とする着信音サービス、「着うた」の時代が来ることは充分予測されました。着うたならば、レコード製作者に利益をもたらすことができます。それに備えようとレコード会社5社が共同で当社を設立したのです。同年10月、携帯電話の着メロサービスから事業を開始しました。

着うたは当社だけでできるサービスではありません。原盤音源はデータ量が大きくなりますから、通信速度や使用料の問題が出るため、携帯電話キャリア会社やその端末に対応してもらうことが必要です。技術的には、不正利用対策としてダウンロードしたデータを外部に出せないよう設定することも重要でした。昨年KDDIのauで第3世代の携帯端末により対応してもらえることになり、12月から着うたをスタートできました。

予想以上の手ごたえ

料金は30秒のデータ「100円」をメインに80円、50円で設定しましたが、当

初は買ってもらえるのか不安でした。蓋を開けてみると予想以上の反響があり、手ごたえを感じています。ユーザーの観点からは、テレビの白黒とカラーの差ぐらいの表現力の違いがあったのでしょうか。100円という料金も思った以上に手頃であり、携帯電話のユビキタスな環境に特有な商品価値が出たと見えています。ダウンロード数は初月が約30万で、直近の6月には300万以上に拡大しました。

現在の配信曲数は17社からの供給を受け、合計で3,000曲以上。当社がプラットフォームを提供するポータル的な役割を担い、レコード会社に活用してもらうかたちを取っています。こうしたビジネスは入口と出口が整っていることが成功への重要な要素です。着うたは、携帯電話という「出口」の聴く環境ができていますから、「入口」のポータル側に魅力的な品ぞろえがあれば事業の発展が見込めます。

もともと当社はレコード業界の利益の確保と発展のために動いています。極端にいうと運営費用や将来へ向けての投資など、当社の事業基盤を確かなものとする範囲以外の収益はすべて、レコード会社に還元します。しかも着うたはオーサリングするだけで済みますから、制作費が着信音メロディの約1/10のコストでまかなえ、低コストのビジネスモデルとして確立されています。レコード会社には、当社のメリットを、



どんどん活用していただければと思います。

サービス充実へ向けた取り組み

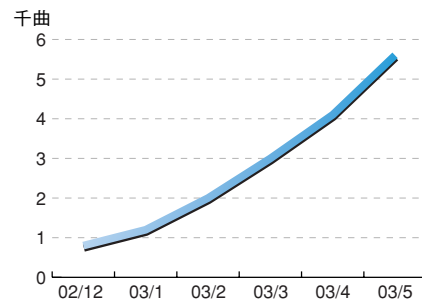
携帯電話はこれからも進化し、高性能化していくと予想されます。それに対応して、今後は1コーラスダウンロードやステレオ化など、着うたサービスの充実を推進するとともに、NTTドコモやJフォンなどサービスを提供する携帯電話キャリアも増やしていきたいと考えています。また、技術面では動画再生できるMPEG4技術の導入も注目されています。当社ではこれに対応して、7月から、auのEzweb向けにアーティストのビデオクリップ映像・音声を提供する「着ムービー」を開始しました。この

ほか、他の音楽配信と連動性を高めるなど、ネットワーク社会のなかで総合的に音楽を楽しむ環境構築に取り組む考えです。

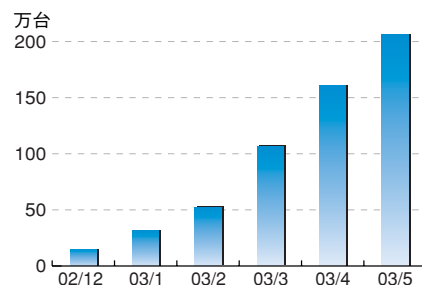
ユーザーの間には、不正な無料配信の利用が良くないという認識が、浸透しつつあると思います。きちんとした配信サービスを適正な価格で提供していけば、レコード業界にとって追い風になるでしょう。ユーザーが自分の音楽ライフをより豊かにできるサービスを創り、提供することが求められます。着うたを第一歩として携帯電話の音楽コンテンツならレーベルモバイル、という地位を確立し、レコード産業に最良の結果をもたらすサービスをリードしていきたいですね。

月を追うごとに広がる「着うた」(KDDIまとめ)

●楽曲数(レーベルモバイル社を含む18社19サイト)



●端末数



PC上におけるセキュアな音楽利用の拡大をテーマに、新たなビジネスの確立に取り組む

「レーベルゲート」は、RIAJ会員社が多数参加するインターネット音楽配信のポータルサイトです。運営会社である株式会社レーベルゲートは、配信ビジネスのインフラ部分を受け持ち、レコード各社がB to Cのビジネスを提供するための最適な環境づくりに取り組んでいます。専務の保科氏にレーベルゲートの役割と、今後の目標について伺いました。

音楽配信アライアンス・ビジネスの場として

「違法行為からレコード会社の権利を自分たちで守ろう」。レーベルゲートの発足した背景には、この考えがあります。

90年代、米国でファイル交換による著作権侵害が深刻な問題となり、日本も放っておけば米国の二の舞になる、という危機感がありました。違法サイトが拡大する前に、権利者利益を確保する音楽配信のビジネスモデルの構築が不可欠との認識がレコード会社に生まれ、独

自に音楽配信を開始する会社も出てきました。しかし、インターネットのインフラ整備には先行投資が相当必要です。1社だけでは運営の費用負担が大きく、円滑な事業展開が難しくなります。

そこで、音楽配信ビジネス参入へのハードルを低くし、各社共通の音楽配信の場を設けて相互ビジネスとして展開するために、バックヤードを担う当社の設立が構想されました。そして複数のRIAJ加盟社の資本参加を得て、2000年4月からポータルサイト「レーベルゲート」がスタートしたのです。



株式会社レーベルゲート
専務取締役 保科裕氏



レーベルゲート 配信特集サイト

株式会社レーベルゲート 会社概要

資本金	1億8,600万円
設立年月日	2000年4月3日
事業概要	音楽配信サービスのためのプラットフォーム事業 1. 音楽配信のためのインフラ提供システムの運用および管理、有料データの決済代行、カスタマーサポート 音楽データの蓄積・配信に関する各種情報の一元管理 2. 音楽配信のポータルサイト運営 レコード会社に関わらず、音楽データを横断的に検索できるサービスの提供
参加会社	エイベックス株式会社 キングレコード株式会社 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 株式会社ティチクエンタテインメント 株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社 株式会社バップ 株式会社BMGファンハウス ビクターエンタテインメント株式会社 株式会社フォーライフミュージックエンタテインメント 株式会社ポニーキャニオン ワーナーエンターテインメントジャパン株式会社 ワーナーミュージック・ジャパン ユニバーサルミュージック株式会社 他 計19社
URL	URL http://www.labelgate.com/

配信環境の整備・進展とともに

発足当時はダイヤルアップ全盛の頃。1曲のダウンロードに20分を費やしていました。しかしブロードバンド時代に入り、ADSLの普及により、1曲 20~30秒でダウンロードできるようになりました。今後は、光通信の導入など通信インフラがさらに整いますので、私の感触では、配信タイトル数がそろえばダウンロード数は確実に増えます。セキュリティ面では、専用プレーヤーソフトMAGIQLIP、携帯型端末のNet MD以外で聴けないようコピーコントロールを施して対応しています。また課金システムは、カード決済からWebマネー、eLIO、Edy、プロバイダー決済など多様な手段をそろえ、利便性を高めています。

現在の実績では、タイトル数が5月末までで約5,500、月々のダウンロード数はおよそ70,000曲となっています。サービス開始から3年経って、曲数は毎年200%以上の伸びを示してきました。堅実な成長は見られますが、ダウンロード数の飛躍的な拡大のためにはタイトル数の増加が大きな鍵を握ると考えています。実際、ユーザーからの検索では配信されていない曲もかなり多く、アンケートでも要望が寄せられていますね。

アルバム配信が可能性を広げる

タイトル数増加とダウンロードの拡大に向けては、アルバム配信がきっかけになると思います。現在は各社とも単曲販売が主流ですが、現在、今秋からのアルバム配信サービスの開始を検討しています。パッケージでもアルバムが売上のかなりの部分を占めていますが、これは音楽配信でも同じだと考えています。新譜はまだ時期尚早だと思いますが、旧譜および廃盤アルバムや店頭から姿を消したアルバムをラインアップすることで、新しい需要の掘り起こしが期待できますよ。インターネットでは在庫管理の必要がなく、廃盤もありませんから、レコード会社、音楽ファン双方にとって、音楽配信は将来的に非常に便利なサービスになると思います。特にインターネット利用の多い20代後半から40代顧客層の、思い出のアルバムを配信できればかなりアピールできるのではないのでしょうか。ユーザーへの利便性を高め、購入しやすい環境を用意することで利用者も増え、不正な無料配信を駆逐する力にもなります。

配信曲数の増加とともに、配信音楽を聴く環境も整える必要があります。当社ではNet MDの普及にも力を入れ、メーカーとの共同キャンペーンなどを展開しています。女性のユーザーが多いMAC対応も課題の一つですね。

音楽配信を収益性の高いビジネスに育成するため、インフラ、システム、サイトの充実に力を注いでいきます。レーベルゲートにご期待ください。

(社)日本レコード協会会員社 音楽配信サイト一覧

会員社	サイト名	URL	専用プレーヤー
ビクターエンタテインメント(株)	na@h!	http://naah.jvcmusic.co.jp/	レーベルゲートMQ方式 Windows Media Audio方式
キングレコード(株)	KMusic	http://www.kingrecords.co.jp/kmusic/	レーベルゲートMQ方式
ユニバーサル ミュージック(株)	Music to U	http://www.universal-music.co.jp/mtu/	レーベルゲートMQ方式
日本クラウン(株)	「音楽配信メニュー」より入る	http://www.crownrecord.co.jp/shopping.html	Windows Media Audio方式
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	em-colle!	http://www.tkma.co.jp/tjc/emcolle/	レーベルゲートMQ方式 Windows Media Audio方式
(株)ソニーミュージック・エンタテインメント	bit music	http://www.sonymusic.co.jp/	レーベルゲートMQ方式
(株)ポニーキャニオン	キャンディ・ドットコム	http://www.can-d.com/	レーベルゲートMQ方式
エイベックス(株)	@music	http://atmusic.avexnet.or.jp	レーベルゲートMQ方式 Windows Media Audio方式
(株)トライエム	e-meldac	http://www.meldac.com/e-meldac/	Windows Media Audio方式
(株)フォーライフ ミュージックエンタテインメント	PARADISE MUSIC	http://www.paradise.co.jp/	レーベルゲートMQ方式



中川 達也(なかがわ たつや)

1976年福岡県生まれ。1998年3月東京大学法学部卒。同年10月司法試験合格。2000年10月弁護士登録(第二東京弁護士会)。現在は、染井・前田法律事務所において、著作権関連案件を中心に、民事事件・刑事事件全般を担当。

著作権登録について

取引先のA社の資金繰りが悪化しているという情報が入ったとする。A社の資産としてめばしいものは、原盤権しかない。とりあえず、原盤権で債権回収したいが、どうすればよいか？

このような問題に遭遇することは、残念ながら、珍しいことではない。一般に「原盤権」と呼ばれる権利の大部分は、著作権法に定められているレコード製作者の「著作隣接権」だ。著作隣接権は、自由に譲渡したり、質入れしたりすることができる。だから、現金で支払いができない会社から、「借金のかた」に原盤権を譲り受けることも可能だ。

だが、この場合、文化庁への「登録」を意識しなければならない。原盤権を譲り受けたつもりで安心していたら、実はA社が、別の債権者にも同じ原盤権を二重に譲渡してしまったという可能性がある。このような、いわゆる「二重譲渡」の場合、どちらが正当な原盤権者として主張できるかという、それは「登録」を先にしたほうだ。たとえ、既に第三者に譲渡されていると知っていながら、後から原盤権を譲り受けた場合でも、先に「登録」したほうが勝つ。だから、原盤権の譲渡を受けても、登録をしておかないと、別の債権者が後から現れて「登録」してしまったとき、譲り受けたはずの原盤権をいきなり失ってしまう。その段階であわててA社に駆け込もうにも、あとの祭りだ。

A社の社長とは長年のつきあいだから、そんな「あこぎ」なマネはしない、などと思ってはならない。A社の社長がいくら良心的でも、A社が破産して「破産管財人」が出てくると、二重譲渡と同じ問題になるのだ。破産管財人は、「登録」がない原盤権の譲渡を認めないことができる。破産管財人に対して、自分が正当な譲受人だと主張するには、「登録」が必要なのだ。

しかし、原盤権(著作隣接権)の登録には、1レコード当たり、9,000円かかる。1レコードというのは、一曲当たり(ISRC番号ごと)と考えられている(アルバム1枚で1レコードではない)。曲数が多いと、登録費用だけでもバカにならない。譲り受けた原盤権すべてを直ちに「登録」するのは、やはり現実的ではないだろう。ではどうするか。

1つの手段は、原盤権を譲り受ける際に、「登録」に必要な書類一式を預かっておくことだ。「登録」の申請に必要な「譲渡証書」と、譲受人側で単独で登録を申請して結構ですという「承諾書」に、譲渡する側の印鑑をもらっておく。そして、譲渡人側に危ない徴候が出てきたら、直ちにその書類を使って「登録」を申請するのである。こうしておけば、土壇場で譲渡人が「登録」に協力してくれないという事態は防ぐことができる。

もっとも、危ない徴候に気づかないうちに第三者に「登録」されていた、という事態は起こりうる。だから、少なくとも重要な原盤権については、譲り受ける時点で「登録」まで済ませておくのが安全だろう。

IFPI海賊版レポート2003から

2003年7月、IFPI(国際レコード産業連盟)はレコード産業海賊版レポート2003(The Recording Industry Commercial Piracy Report 2003)を発表しました。本レポートは、2002年の世界各国・地域の海賊版音楽市場の現状をまとめたものです。海賊版犯罪の組織化・巨大化により、同年に販売された海賊版CDが過去最高の11億枚を超えるなど、正規の音楽市場に重大なダメージを与えていることなどが明らかになりました。

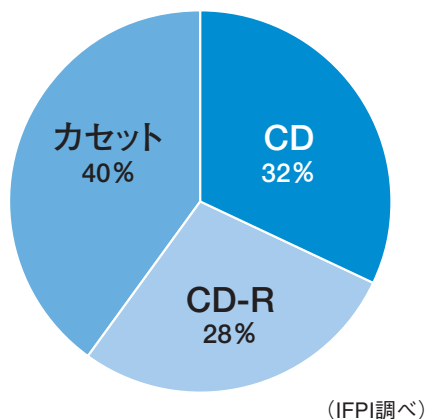
世界で販売される音楽レコードの40%が海賊版

2002年の世界の海賊版音楽市場は約46億ドルと推定され、対前年比7%の増加を記録する一方で、同年の正規音楽売上は、対前年比7%減の約320億ドルとなりました。

また、2002年に販売された海賊版CDは、対前年比14%増となり、初めて11億枚に達しました。これは、世界で販売される音楽CDのうち、3枚に1枚が海賊版であることを示しています。また、カセットテープを含めると、販売される音楽レコードのうち、40%が海賊版となる計算です。

この海賊版音楽市場規模は海賊版の販売価格のみに基づいて推計されているため、実際に音楽産業が被る損害は、この数字をはるかに上回ります。フォーマット別では、カセットテープから、より付加価値の高いディスクへ移行する傾向が続いており、ブランクCD-Rの価格低下がこの傾向に一層の拍車をかけていると考えられます。

種類別海賊版音楽レコードシェア(2002年)



光ディスクの過剰供給が海賊版CD増加の原因

海賊版CDの傾向には地域差がありますが、世界的に見た場合、工場でプレスされた海賊版とCD-Rで、ほぼ同じ枚数となっています。

工場で製造される海賊版CDが多い地域は、主にアジアとロシアです。また、世界の4分の3以上の海賊版CDがアジア地域で販売されています。

一方、コンピューターを利用して違法に複製される海賊版CD-Rが多い地域として、中南米、南欧、東欧があげられます。CD-Rを用いた海賊版は、大量複製が可能であることに加え、製造元の特定・発見が難しく、レコード産業にとって大きな脅威となっています。

カセットテープによる海賊版は、対前年比20%減で、5年前には海賊版音楽市場全体の80%以上という状況でしたが、2002年には40%に減少しています。中東、アジア、アフリカ、東欧といった地域では、海賊版の主力はいまだにカセットテープで、その合計は、全体の90%に上ります。

海賊版音楽市場が拡大し続ける最大の原因は、光ディスクの過剰な製造能力です。光ディスク製造に対する不十分な規制と正規需要をはるかに上回る供給が、海賊版CDを増加させる原因となっているのです。

国・地域別光ディスク供給推定枚数(2002年)

国・地域	光ディスク 供給可能推定枚数 (百万枚)	光ディスク 合法需要推定枚数 (百万枚)
台湾	7,600	230
香港	2,700	150
中国	2,500	700
マレーシア	1,600	65
インド	800	160
シンガポール	720	73
タイ	500	53
ポーランド	320	120
ロシア	300	70
インドネシア	190	17
チェコ共和国	170	37

(Understanding and Solutions社調べ)

IFPIの海賊版対策と成果

横行する海賊版に対し、IFPIおよび各国の海賊版対策機構は、約250人の調査員とアナリストで構成される海賊版対策チームを結成し、各国の政府、警察、税関との密接な連携の下、取り締まりを強化しています。

一例としては、法医学研究所の協力の下、海賊版CDに使用されるインクを分析し、製造元を特定・摘発する取り組みがあげられます。

このような調査・摘発の結果、2002年に押収された海賊版CDは、2001年よりも3,700万枚多い、5,000万枚に上りました。

2002年には、71の海賊版CD製造ラインが閉鎖・廃棄され、これらを合計した製造能力枚数は、年間3億枚を超えると推定されます。また、2001年は4,500台だったCD複製機器の押収台数は、2002年には7,000台(年間製造推定枚数：2.5億枚)に増加しました。



CD-Rバーナー

10の国・地域を重点的な海賊版取り締まりエリアとして決定

さらに、IFPIでは、初めての取り組みとして重点的な海賊版取り締まりが必要な国・地域として、以下の10の国と地域を特定しました。

ブラジル、メキシコ、パラグアイ、スペイン、ポーランド、ウクライナ、ロシア、中国、台湾、タイ

これら10の国・地域について海賊版音楽市場規模(USドル)、正規音楽市場規模、海賊版の占める割合、対前年比海賊版成長率(数量)、対前年比正規品成長率(数量)の各項目を、「海賊版取り締まり重点強化国・地域の状況」に表示しました。

● 海賊版取り締まり重点強化国・地域の状況

ブラジル

海賊版音楽市場規模：	1.66億USドル
正規音楽市場規模：	8,000万枚・巻
海賊版の占める割合：	53%
海賊版成長率(対前年比)：	19%
正規品成長率(対前年比)：	2%

メキシコ

海賊版音楽市場規模：	2.11億USドル
正規音楽市場規模：	5,400万枚・巻
海賊版の占める割合：	68%
海賊版成長率(対前年比)：	26%
正規品成長率(対前年比)：	-4%

パラグアイ

海賊版音楽市場規模：	3,900万USドル
正規音楽市場規模：	20万枚・巻
海賊版の占める割合：	99%
海賊版成長率(対前年比)：	1%
正規品成長率(対前年比)：	9%

スペイン

海賊版音楽市場規模：	6,600万USドル
正規音楽市場規模：	6,500万枚・巻
海賊版の占める割合：	25%
海賊版成長率(対前年比)：	0.2%
正規品成長率(対前年比)：	-19%

ポーランド

海賊版音楽市場規模：	2,800万USドル
正規音楽市場規模：	1,400万枚・巻
海賊版の占める割合：	41%
海賊版成長率(対前年比)：	-
正規品成長率(対前年比)：	-45%

ウクライナ

海賊版音楽市場規模：	3,200万USドル
正規音楽市場規模：	1,700万枚・巻
海賊版の占める割合：	75%
海賊版成長率(対前年比)：	14%
正規品成長率(対前年比)：	-

ロシア

海賊版音楽市場規模：	3.12億USドル
正規音楽市場規模：	1.13億枚・巻
海賊版の占める割合：	66%
海賊版成長率(対前年比)：	12%
正規品成長率(対前年比)：	2%

中国

海賊版音楽市場規模：	5.33億USドル
正規音楽市場規模：	5,800万枚・巻
海賊版の占める割合：	91%
海賊版成長率(対前年比)：	24%
正規品成長率(対前年比)：	9%

台湾

海賊版音楽市場規模：	4,600万USドル
正規音楽市場規模：	1,700万枚・巻
海賊版の占める割合：	48%
海賊版成長率(対前年比)：	-
正規品成長率(対前年比)：	-7%

タイ

海賊版音楽市場規模：	3,800万USドル
正規音楽市場規模：	2,900万枚・巻
海賊版の占める割合：	35%
海賊版成長率(対前年比)：	8%
正規品成長率(対前年比)：	-19%

さらに、これら各国・地域を含む世界の音楽市場における海賊版の占める割合を、以下の表にまとめました。

● 世界各国・地域の世界海賊版音楽の割合

地 域	50%以上	25-50%	10-25%	10%以下
北米				カナダ アメリカ
西ヨーロッパ	ギリシャ	キプロス イタリア ポルトガル スペイン	ベルギー フィンランド オランダ	オーストリア デンマーク フランス ドイツ アイスランド アイルランド ノルウェー スウェーデン スイス イギリス
東ヨーロッパ	ブルガリア エストニア ラトビア リトアニア ルーマニア ロシア ウクライナ	クロアチア チェコ ハンガリー ポーランド スロバキア	トルコ スロベニア	
アジア	中国 インドネシア マレーシア パキスタン	香港 インド フィリピン 台湾 タイ	シンガポール 韓国	日本
中南米	アルゼンチン ボリビア ブラジル コロンビア エクアドル メキシコ パラグアイ ペルー ウルグアイ ベネズエラ	チリ コスタリカ		
中東	エジプト イスラエル レバノン	クウェート サウジアラビア	バーレーン オマーン カタール	アラブ首長国連邦
オーストラレーシア				オーストラリア ニュージーランド
アフリカ		南アフリカ	ジンバブエ	

(IFPI調べ)

Topics & Information

■市民のための著作権講座

～デジタル環境下における著作権制度～開催（松山市）

2003年7月18日(金)、19日(土)の両日、愛媛県松山市のエスポワール愛媛文教会館において、社団法人著作権情報センター(CRIC)主催の「市民のための著作権講座～デジタル環境下における著作権制度～」が開催されました。1日目の18日は著作権に関心のある一般市民を中心とした講座が生まれ、2日目は小・中・高校の先生や教育関係の方々を対象に、現場における著作権教育のあり方についての講座が行われました。CRICでは、これからも教育関係者を対象とした著作権教育を定期的実施していく予定です。

なお、この講座は、社団法人私的録音補償金管理協会(sarah)の著作権制度に関する教育及び普及啓発を目的とする共通目的基金から助成を受けて実施されたものです。

■音楽議員連盟第28回総会開催

2003年7月15日(火)、東京都千代田区の憲政記念館において、第28回音楽議員連盟総会が開催されました。

今回の音楽議員連盟(音議連)総会には、公務ご多忙の中、32名の先生方、池坊保子文部科学大臣政務官、河合隼雄文化庁長官、銭谷眞美文化庁次長他文化庁幹部、音議連振興会議の会員である文化芸術分野の団体代表ら50名のオブザーバーの参加を得ました。

総会では、斉藤斗志二事務局長の開会ご挨拶、7月4日に逝去された櫻内義雄前会長のご冥福を祈っての黙祷、中野寛成副会長からのご挨拶、池坊文部科学大臣政務官からのご挨拶、斉藤事務局長からの国会報告が行われました。

引き続き、(社)日本音楽著作権協会星野哲郎会長、(社)日本芸能実演家団体協議会野村萬会長から、総会議案書案のポイントについて説明が行われた後、当協会依田巽会長から、著作権法改正等に関する課題を中心とした事項、1) 著作権教育の充実、2) 保護期間の延長、3) 私的録音補償金制度の見直し、4) 輸入権の創設、5) 放送権の創設等を訴え、さらに新たな提案として、6) コンテンツ利用促進の大前提としての権利保護、が提言されました。

その後、質疑応答を経て全ての分野の提言が採択され、音議連の活動方針が確定しました。

■文化芸術推進フォーラム開催

2003年7月23日(水)、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて、文化芸術推進フォーラム主催の「21世紀文化芸術の新時代に向けて」<つどい>及び<交流会>が開催されました。

<つどい>は、同フォーラムの構成12団体の会員等190名以上の参加を得て、野村萬推進フォーラム議長の開会挨拶、銭谷眞美文化庁次長のご講演が行われた後、映画分野について日本映画監督協会崔洋一専務理事、音楽分野について依田巽当協会会長、舞台芸術分野について劇作家・演出家の平田オリザ氏から提言が行われました。

音楽分野の提言項目は、1) 音楽に関わる権利の保護期間延長、2) 私的録音補償金制度の見直し、3) アジアとの日本音楽産業文化交流の促進等、4) レコードの輸入権でした。その他フォーラム全体に係る問題として、著作権教育の充実と、コンテンツ流通促進への対応についても依田会長から提言されました。

第2部の<交流会>では、音楽議員連盟、映画議員連盟の多くの議員の先生方、文化庁幹部、推進フォーラムの会員等150名以上の参加を得て、文化芸術振興のための基本方針に基づいて、今後、日本の文化芸術活動がさらに推進されることを祈念して、セレモニー、懇談が行われました。



交流会の様

■知的財産推進計画正式決定

2003年7月8日(火)、政府の知的財産戦略本部(本部長・小泉首相)本部会合で「知的財産推進計画」が正式に決定されました。

知的財産立国の実現に向けて策定された本推進計画は、「創造」、「保護」、「活用」などの分野ごとに整理され、約270項目にわたる施策が盛り込まれています。

音楽産業に関係ある項目としては、1) 損害賠償制度の強化、2) 知的財産権侵害に係る刑罰の見直し、3) 国際的な著作権制度の調査推進、4) 官民連携による模倣品・海賊版対策の推進、5) インターネットを利用した侵害の取締り強化、6) 私的録音録画補償金制度の見直し、7) レコード輸入権の検討、8) 著作権等の保護期間、9) 技術的保護手段の回避等に係る法的規制の対象拡大、10) 既存のコンテンツの有効活用促進、11) 知的財産権教育に関する児童・生徒向け教育及び教員向け研修の推進、等があげられます。

本推進計画の当面の目標は、2003年度中に取り組みべき施策を着実に実施することと、2004年度の通常国会にできる限り多くの関連法案を提出することとされています。本推進計画の全文が掲載されているWEBのアドレスは以下の通りです。

● <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/030708f.pdf>

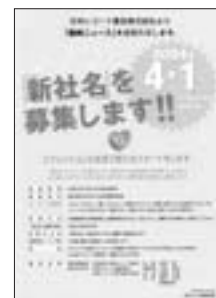
■日本レコード普及、新社名募集

日本レコード普及(株)では、2004年4月1日付で社名を変更することとし、これに伴い業界関係者を対象に新社名を募集することになりました。

この新社名募集は、音楽ギフトカードを発行している日本レコード普及社が、音楽業界の方々により身近でより親しみやすさを感じていただくために行うものです。

【応募要領】

- 応募資格:** 日本レコード普及取引先並びに業界関係者
- ネーミング:** 「もらってうれしい、贈ってたのしい」音楽ギフトカード。無限に夢ひろがる音楽ギフトカードをイメージでき、呼びやすい、聴きやすい、読みやすい社名。英文、カタカナ表記可。
- 応募方法:** 所定の応募用紙に必要事項をもれなく記入の上、FAXにて応募
- 締切:** 2003年10月末
- 発表:** 2004年3月中旬、最優秀ネーミング賞1名
- 商品:** オリジナル音楽ギフトカード(受賞者ご自身のイラスト及び写真etc)500円券400枚1セット+表彰状
- 審査:** 審査委員長/(社)日本レコード協会 依田巽会長
審査委員/日本レコード商業組合 矢島靖夫理事長、日本レコード普及(株) 齊藤正明会長、勝目好男社長、取締役会
- 連絡先:** TEL 03-3542-4181



■当協会生産実績区分等の見直しについて

音楽市場における映像商品や新規オーディオメディアの普及に伴い、現状に即した音楽コンテンツの市場実態を反映できるよう、生産実績区分等の見直しを進めておりましたが、今月の公表分から下記の通り、区分を変更いたしました。

- 1) オーディオレコードに「その他」区分を新たに設け、SACD、DVD-Audio、DVD-Music及びMDの合計を追加する。
- 2) 従来のビデオレコードの内数として、音楽ビデオの区分を独立させる。
- 3) 従来の「オーディオ/ビデオ合計」に加え、オーディオレコード、音楽ビデオの合計「オーディオ/音楽ビデオ合計」を新たに追加する。

● 関係官庁人事異動

関係官庁で以下の人事異動がありましたので、お知らせいたします。(敬称略)

平成15年6月27日付

- ・文化庁長官官房政策課課長補佐 堀野 昌三 (前・文化庁長官官房著作権課著作権調査官 併任・著作権課課長補佐)

平成15年7月1日付

- ・経済産業省製造産業局参事官室参事官補佐 中園 雅巳 (前・文化庁長官官房国際課国際著作権専門官)

- ・文化庁長官官房国際課国際著作権専門官 岩松 潤 (前・経済産業省(独立行政法人日本貿易保険))

平成15年7月25日付

- ・文部科学省生涯学習政策局長 銭谷 眞美 (前・文化庁次長)

- ・文化庁次長 素川 富司 (前・大臣官房審議官(研究開発局担当))

- ・文部科学省科学技術・学術政策局政策課長 河村 潤子 (前・文化庁文化政策課長)

- ・文化庁文化政策課長 西阪 昇 (前・文部科学省研究振興局学術研究助成課長)

- ・文部科学省研究振興局学術研究助成課長 岡本 薫 (前・文化庁著作権課長)

- ・文化庁著作権課長 吉川 晃 (前・文部科学省研究振興局学術機関課長)

● 2003年7月 会議メモ

- 7. 2 マーケティング委員会
- 7. 8 法制委員会
- 7.10 レコード倫理審査会
- 7.11 情報・技術委員会
- 7.16 広報委員会
- 7.18 執行委員会
- 7.25 理事会

Monthly Production Report

2003年6月度レコード生産実績

6月度のオーディオ・ビデオの生産実績合計は、数量で前年同月比109%の3,757万枚・巻、金額は104%の500億円でした。この結果、オーディオレコードの2003年度上半期合計は、金額で邦楽が前年同期比79%の1,354億円、洋楽が104%の538億円となり、邦洋合計では、前年同期比85%の1,892億円となりました。

また、今月から集計を開始した音楽ビデオは、数量で前年同月比245%の191万枚・巻、金額で183%の37億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			6月実績						2003年(1月~6月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	1,382	5	269	266	1	80	4,479	3	114	1,400	1	67
		洋	1	0	19	0	0	52	4	0	16	2	0	26
		計	1,383	5	267	266	1	80	4,483	3	113	1,401	1	67
ン	12cmCD	邦	6,026	21	103	4,591	13	105	33,205	22	82	25,053	13	82
		洋	186	1	87	156	0	113	611	0	77	510	0	84
		計	6,212	22	103	4,747	14	105	33,816	22	82	25,563	14	82
ル	小計	邦	7,408	26	117	4,857	14	103	37,685	25	85	26,453	14	81
		洋	187	1	85	156	0	113	614	0	75	512	0	83
		計	7,595	26	116	5,013	14	103	38,299	25	85	26,965	14	81
12cmCD アルバム	邦	13,060	46	89	18,770	54	74	70,346	47	83	103,609	55	78	
	洋	6,946	24	103	10,368	30	107	35,809	24	99	53,002	28	104	
	計	20,006	70	93	29,138	83	84	106,155	70	88	156,611	83	85	
CD 合計	邦	20,468	71	97	23,628	67	79	108,030	71	84	130,061	69	79	
	洋	7,133	25	102	10,523	30	107	36,424	24	99	53,514	28	103	
	計	27,601	96	98	34,151	98	86	144,454	96	87	183,575	97	85	
アナログ ディスク	邦	52	0	104	36	0	65	206	0	71	215	0	64	
	洋	14	0	80	13	0	69	37	0	57	38	0	57	
	計	65	0	97	49	0	66	242	0	69	253	0	63	
カセット テープ	邦	915	3	79	764	2	88	6,075	4	94	4,950	3	98	
	洋	1	0	6	1	0	6	13	0	32	10	0	29	
	計	917	3	78	765	2	86	6,088	4	94	4,960	3	97	
その他	邦	77	0	113	29	0	241	199	0	37	139	0	137	
	洋	13	0	308	30	0	291	153	0	358	266	0	355	
	計	90	0	124	59	0	264	351	0	60	405	0	229	
総合計	邦	21,512	75	96	24,456	70	79	114,510	76	84	135,366	72	79	
	洋	7,162	25	102	10,568	30	107	36,626	24	99	53,827	28	104	
	計	28,673	100	98	35,024	100	86	151,135	100	87	189,193	100	85	

● 音楽ビデオ

			6月実績						2003年(1月~6月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD			1,762	92	330	3,307	89	233	12,515	90	293	22,859	87	200
LD・その他			74	4	61	146	4	49	542	4	76	967	4	63
テープ			77	4	60	251	7	80	885	6	70	2,489	9	78
合計			1,913	100	245	3,703	100	183	13,942	100	223	26,315	100	163

● オーディオ/音楽ビデオ合計

			6月実績						2003年(1月~6月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ			28,673	94	98	35,024	90	86	151,135	92	87	189,193	88	85
音楽ビデオ			1,913	6	245	3,703	10	183	13,942	8	223	26,315	12	163
合計			30,586	100	101	38,727	100	91	165,078	100	92	215,508	100	90

● ビデオ

			6月実績						2003年(1月~6月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD			8,017	90	186	11,565	77	228	44,416	89	226	63,165	75	178
LD・その他			103	1	57	181	1	47	751	2	74	1,148	1	63
テープ			779	9	104	3,199	21	152	4,880	10	88	19,617	23	101
合計			8,899	100	170	14,945	100	198	50,047	100	191	83,929	100	148

● オーディオ/ビデオ合計

			6月実績						2003年(1月~6月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ			28,673	76	98	35,024	70	86	151,135	75	87	189,193	69	85
ビデオ			8,899	24	170	14,945	30	198	50,047	25	191	83,929	31	148
合計			37,572	100	109	49,969	100	104	201,182	100	101	273,122	100	98

備考 1. 上記実績は、会員会社「24社」の集計である。当会員会社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

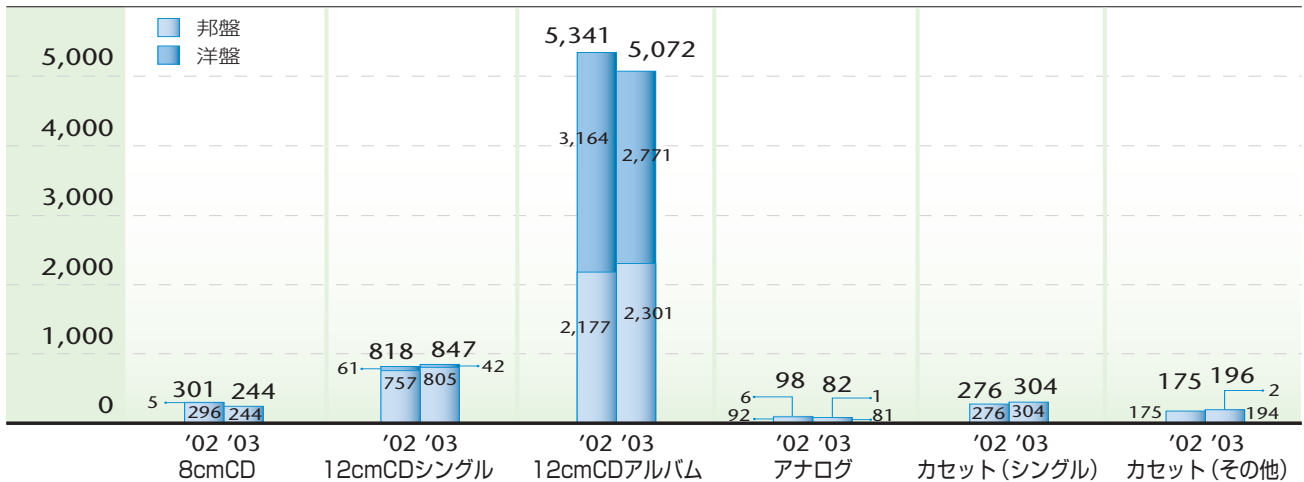
2003年1月～6月新譜数

2003年(平成15年)1月～6月に発売された新譜タイトル数を集計しました。

邦盤で、12cmCDシングル、アルバムともに6%の増加となった他、ビデオはDVD(特に音楽)の躍進により7%増加しました。

● オーディオレコード新譜数

タイトル



● オーディオレコードジャンル別新譜数

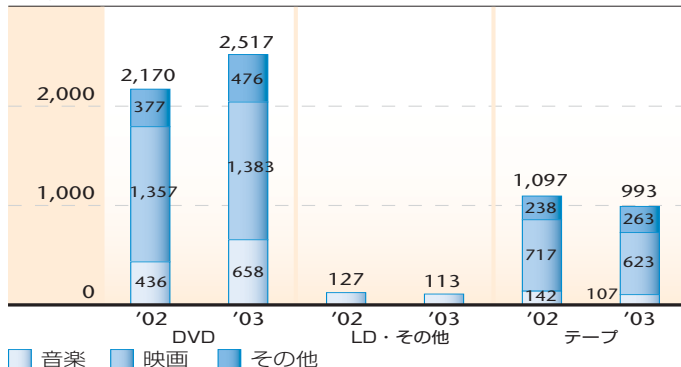
単位:タイトル

ジャンル	8cmCD	12cmCD			アナログ	カセット		合計	
		シングル	アルバム	計		シングル	その他		
邦盤	演歌	216	101	148	249	0	277	121	863
	ポップス・歌謡曲	14	233	427	660	37	13	10	734
	ニューミュージック	1	389	969	1358	44	2	3	1,408
	小計	231	723	1,544	2,267	81	292	134	3,005
	軽音楽	0	0	80	80	0	0	0	80
	民謡・純邦楽	3	8	60	68	0	11	20	102
	教育・教材・童謡・童話	0	1	73	74	0	1	9	84
	アニメーション	9	70	322	392	0	0	8	409
	クラシック	0	0	100	100	0	0	0	100
	カラオケ	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	3	122	125	0	0	23	149	
邦盤計	244 (82%)	805 (106%)	2,301 (106%)	3,106 (106%)	81 (88%)	304 (110%)	194 (111%)	3,929 (104%)	
洋盤	ロック・ディスコ	0	31	1,093	1,124	1	0	0	1,125
	ジャズ・フュージョン	0	1	636	637	0	0	0	637
	ポピュラーソング	0	6	199	205	0	0	0	205
	映画音楽	0	1	126	127	0	0	0	127
	その他	0	0	31	31	0	0	0	31
	小計	0	39	2,085	2,124	1	0	0	2,125
クラシック	0	2	674	676	0	0	2	678	
その他	0	1	12	13	0	0	0	13	
洋盤計	0 (-)	42 (69%)	2,771 (88%)	2,813 (87%)	1 (17%)	0 (-)	2 (-)	2,816 (87%)	
合計	244 (81%)	847 (104%)	5,072 (95%)	5,919 (96%)	82 (84%)	304 (110%)	196 (112%)	6,745 (96%)	

() 内は対前年比

● ビデオレコード新譜数

タイトル



● ビデオレコードジャンル別新譜数

単位:タイトル

ジャンル	ディスク		テープ	合計	
	DVD	LD・その他			
音楽	邦楽	356	0	105	461
	洋楽	244	0	2	246
	カラオケ	58	113	0	171
映画	邦画	319	0	139	458
	洋画	448	0	138	586
	アニメ	616	0	346	962
その他	476	0	263	739	
合計	2,517 (116%)	113 (89%)	993 (91%)	3,623 (107%)	

() 内は対前年比

Gold Album +... 認定

2003年6月度

6月度ゴールドアルバム等認定では、邦楽で、175R「Songs」とCHEMISTRY「Between the Lines」の2作品がプラチナ(40万枚以上)に、洋楽では、「8マイル〜ミュージック・フロム・アンド・インスパイアード・バイ・ザ・モーショントピクチャー」がトリプル・プラチナ(60万枚以上)に認定されました。

■ 邦楽

アルバム

● プラチナ

Songs	175R	2003.06.18	TO
Between the Lines	CHEMISTRY	2003.06.18	DF

● ゴールド

南風	夏川りみ	2002.03.21	V
SMILE	スガシカオ	2003.05.07	BMG

シングル

● プラチナ

Breezin' ~Together~	EXILE	2003.05.28	AVT
心に夢を君には愛を／ギラギラ	KinKi Kids	2003.06.18	JE

● ゴールド

true blue／恋々・・・	ZONE	2003.04.16	SR
Darling	V6	2003.05.28	AVT
K1	稲葉浩志	2003.06.11	BM
JOINT	RIP SLYME	2003.06.18	WJ
morrow	Dragon Ash	2003.06.25	V
勝手にシンドバッド	サザンオールスターズ	2003.06.25	V

■ 洋楽

アルバム

● トリプル・プラチナ

8マイル 〜ミュージック・フロム・アンド・インスパイアード・バイ・ザ・モーショントピクチャー	V.A.	2002.10.30	UM
---	------	------------	----

● ゴールド

ダッティ・ロック	ショーン・ボール	2003.02.19	WJ
HAREM	サラ・ブライトマン	2003.04.23	TO
HAIL TO THE THIEF	レディオヘッド	2003.06.02	TO
セイント・アンガー	メタリカ	2003.06.09	SI

*AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AR:アンティノスレコード/AVT:エイベックス/BG:ビーグラムレコーズ/BM:パーミロンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/CT:カッティン・エッジ/DF:デフスターレコーズ/EI:エピックレコーズ・インターナショナル/EP:ゼティマ/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MH:ソニー・ミュージックハウス/MU:ドリーミュージック/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PG:ポリグラム/PI:パイオニアLDC/PO:ポリドール/PS:ポリスター/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/RR:ロードランナー・ジャパン/SI:ソニーレコーズ・インターナショナル/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SS:ソニー・ミュージックディストリビューション/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズ・ファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/TRI:トライエム/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/VAP:バップ/V2:ヴィズレーコーズ・ジャパン/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XS:ソニー・ミュージックエンタテインメント/ZA:ヴァインレコーズ/ZJ:ゾンバ・レコーズ・ジャパン

● ゴールド・アルバム他認定基準改定のお知らせ

本年7月度認定分から、ゴールド・アルバム等認定基準を改定します。基準枚数を見直すと共に、現在基準が異なっている邦楽及び洋楽のシングル・アルバムの基準が、下表の通り、統一されます。

また、新たに、音楽映像作品(音楽DVDビデオ、VHSビデオ等)の認定も開始します。

ゴールドアルバム他認定基準枚数一覧

邦楽・洋楽	略号	最低正味出荷枚数 アルバム/シングル
ゴールド	G	累計100,000以上
プラチナ	P	250,000
ダブル・プラチナ	PP	500,000
トリプル・プラチナ	PPP	750,000
ミリオン	M	1,000,000
2ミリオン	2M	2,000,000
3ミリオン	3M	3,000,000
4ミリオン	4M	4,000,000
5ミリオン	5M	5,000,000



Songs/175R



Between the Lines/
CHEMISTRY



8マイル/V.A.



Breezin' ~Together~
/EXILE



心に夢を君には愛を/
KinKi Kids

*40万枚以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

協会からのお知らせ

本年度「Respect Our Music」キャンペーンのロゴをデザインしたステッカーを制作しました。各イベント会場等で配布する予定です。皆様も是非ご活用ください。お問い合わせは広報部 (Tel. 03-3541-4433) までお願いします。



Respect Our Music

THE RECORD No.525 2003年8月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 依田 巽
編集人 田辺 攻
発行日 2003年8月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F
TEL. 03-3541-4411 (代) FAX. 03-3541-4460 (代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

編集後記

先月号のアンケートには、たくさんのご回答をいただき、本当にありがとうございました。皆様からいただいたご意見・ご要望をできるだけ多く誌面に活かしていけるよう努力して参ります。今後も、お気付きの点などありましたら、広報部までお寄せください。

(R.O)